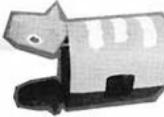


4月の科学あそび分科会

赤べこを作ろう

担当: 原田佐和子

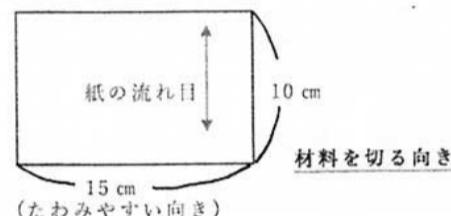


昨年、小学生対象のサイエンスくらぶで野菜の紙を作った。紙つながりで、和紙を使ったものを作りたいと思い、2021年の干支「赤べこ」を作ることにした。2時間の講座内で張子を作るのは無理なので、できるだけ簡単な方法で張子の雰囲気が出るよう色々試作し、何とかそれらしいものが出来上がった。

<ちょっとだけ紙のはなし>

紙（洋紙）には、タテヨコがある。これは、紙を作る際にパルプを流して作るため、纖維が1方向に並ぶからだ（紙の流れ目）。新聞紙でも折り紙でも、きれいに破くことができる方向とギザギザになってしまう方向がある。また、曲がりやすさも違う。工作をするときは、この紙の方向を間違えると出来栄えが全く違ってしまうことがある、材料を準備する時には気をつける必要がある。

赤べこを作る際に注意したのは、板目紙を切る時の紙の向き。紙が曲がりやすい方でアーチ型に曲げる。それでも厚い板目紙は曲がりにくいで、お花紙を水溶き糊で貼ることで、適度に湿らせ、ぬれているうちに曲げ、きれいに仕上がった。



<材料>

板目紙（胴体15×10cm、ブリッジ5×3cm）、お花紙（赤）、障子紙（目や模様）、竹串、網戸のゴム、ワッシャー（M3×8 3~5個）、糸、発泡スチロール、ヤマト糊

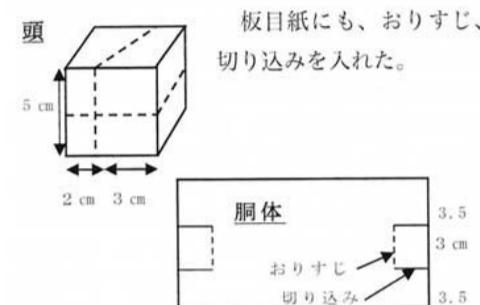
※網戸のゴム（工作に便利な材料のひとつ。ホームセンター、大型スーパーなどで売っている。太さ5.5mm程度の物を5mm弱の長さの輪切りにして使う。穴の大きさが製品によって違うので、購入する時は竹串を持って行き、サンプルで試してから買うと良い。ちなみに、1パック7mも入っている！）

<道具>

筆、ホッチキス、油性マジック、はさみ

<準備>

発泡スチロールの立方体をスチレンカッターで図のように4つに切り分け、面取りして頭の形を作り、竹串に刺すところまで準備した。



<作り方>

①板目紙にお花紙をのせ、うすめた糊（大豆くらいの糊に水30ml）を筆でそっとぬる。

注：強くこするとやぶれる。

はみだした部分は、筆で裏へ折りこんで貼る。

②板目紙がぬれているあいだに、全体をそっとアーチ状に曲げ、おりすじで曲げたおなかの部分にブリッジを入れてホッチキスで止める。

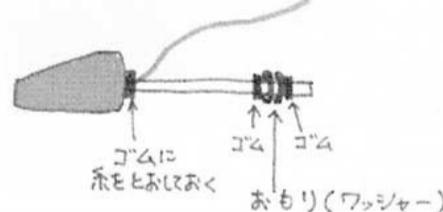
—6—

—(4月の科学あそび分科会)2—

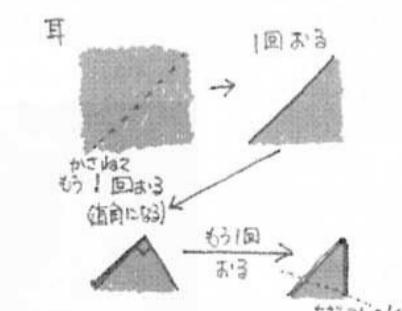


- ③頭は、赤い紙をだいたいの大きさにちぎって同じようにのりを筆でぬってはる（2,3枚貼りかさねると色が濃くなる）
- ④少しかわいたら、竹串に糸をつけて頭をつるし、よくゆれるように、おもり（ワッシャー）や竹串の長さを調節する。

ワッシャーはゴムではさんで固定する



- ⑤赤い和紙で耳、白い和紙で目や鼻を作つて糊（うすめていない物）で貼る。



耳：お花紙を3回くらいたたんで形を作る
目：障子紙を丸くちぎり、油性ペンで描く
※和紙はにじむので、試し書きしてから

- ⑥板目に5mmほど切り込みを入れて、糸をはさみ、頭をぶらさげる。
糸の長さを調節し、ぬけないように結び目を作つてから切る。

□よんでみよう□

『東日本の和紙』和紙ってなに？①

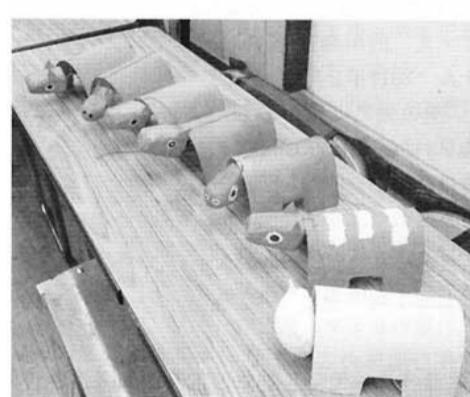
理論社 2020年10月

北海道、東北、関東、中部の代表的な手しき和紙を紹介し、最後に和紙とかかわりの深い郷土玩具も載っている。



<さいごに一言>

準備はちょっと大変ですが、仕上がりはまあまあ。来年は寅年。くびふりトラもいかが？（トラの試作品は写真を見てください）。



参加者の作品とトラの試作品

